

社会の意思決定と 科学者・専門家

流通経済大学法学部
尾内 隆之

2012年3月25日
日本物理学会@関西学院大学

- やっていること

主に環境政策・科学技術政策の決定過程

民主主義論

- 最近書いたもの

尾内隆之・調麻佐志，住民ではなくリスクを管理せよ：「低線量被ばく
のリスク管理に関するWG報告書」にひそむ詐術，『科学』2012-3

尾内隆之・本堂 毅，御用学者がつくられる理由，『科学』2011-9

「放射能汚染」に向き合って/向き合わされて

- 直面したのは...

リスク評価とリスク管理の混同

専門家が「科学的」な判断と称しておこなう「踏み越え」

- リスク評価をどう受け止め、どんな対策を、どの程度とるか...
- それを、誰が決めるのか...

社会の意思決定における科学、科学者、専門家の位置づけを
人々が問い直し始めている

「社会の意思決定」とは？

私的な自治の集合として自律的にできあがるものもあるかもしれないが、大半は、公的な決定が関与

一方で、問題における不確実性の存在

- 政策決定者の中心的関心は、経路依存＋漸増主義＋決定コストの縮減
- 「専門家」はそのために使われる（面がある）



問題は解けるのか？

問題を解く意志があるのか？

専門家と市民の共同

- 医療におけるインフォームド・コンセント
(インフォームド・チョイス)
 - 専門家のチーム化
 - 専門知の相対化(セカンドオピニオン)
 - 当事者の知見・判断・意見の尊重
- 裁判員制度
 - 専門家の相対化(たとえば量刑判断)
 - 熟議モデルとしての評議

行政的解決の限界

- 行政による対応の問題点
 - インクルメンタリズム
 - 避難回避、責任回避
 - 行政的合理主義の欠陥 (Dryzek, 2002)
 - ※必要な知の適切な統合ができない



- 不確実性をはらんだ問題を解決できない

念のため...行政的行動様式は行政に限ったものではない

決定の正当性をめぐって

ある決定＝だれかが決め、多くの人はそのを受容する側
(間接民主政)

- 決定内容の「妥当性」 ...エビデンス
- 決定手続きの「正統性」 ...納得・信頼

妥当性としての「正しさ」が手続きの正統性を担保するわけではない

...もともと、「妥当性」の改善が重要なのは確か

例: JST/Ristex 「政策のための科学」

JST/CRDS 「政策における科学と政府の役割及び責任の原則に係る原則の確立に向けて」

「正統性」への浸食①

- 価値判断への「踏み越え」

科学的事実や科学的評価を、社会の集合行為（ひいては個人の選択）における価値判断に直結させる

「リスク評価／リスク管理」の切り分け問題

「相場観（相場感覚）」

・ナイーブな例 ←

・構造的な例 ⇒ 構造的に対応

「正統性」への浸食②

- 知見を確定的に語る「踏み越え」
- 科学的知見の間での「踏み越え」

分野ごとの「相場観」のちがい

科学と工学のちがいのリスク評価への影響

科学技術訴訟における専門家証人

リスク研究における実験系と疫学系

構造的課題

- 決定者の依存、委託
価値判断を引き出し、そのまま利用しようとする
- 市民(素人)の依存、委託
いわゆる「おまかせ」状態
- メディアによる表象
不確実なことを不確実と表現しない／しがたい

...社会の側に改善すべき点があるのは確か

正統性への浸食③

- ユニークボイス・シングルボイス

(例) 気象学会の呼びかけをめぐる議論

- ・科学的知見・情報の多様性をどう扱うか
- ・行政の決定と、科学者(集団)による知見提供との関係



- ユニファイド・ボイス

“independent of government”

“scientific organizations” による “unified voice”

(Kevin Crowley, NSF)

単なることばづかいの違いなのか？

構造としての権力

- 科学者自身が(無自覚も含めて)権力的にふるまわなくとも発揮される権力性

「決定」における制度の拘束作用から考える...

《例》ヨーロッパ諸国・EUにおける予防原則と「補完性原理」

こうした土台なしに専門家と市民の対話が機能するか？



権力関係を無視した「対話」は既存の構造がもつ圧力を温存

= 結果としてのパターンリズム

= 「合理性」の選別

「科学者」と「専門家」のちがいは？

- こうした権力関係に科学者・専門家が乗っている
→ 無自覚から生じる「御用」問題

しかし、果たしてそこでは「科学」が信頼を失うのか？

「専門家＝知っている人

科学者＝知らない人」（影浦、2012）

【 専門家＝ある分野のある状況に応じた解を提供する存在
（問題状況の客観的考察をしない？）

科学者＝科学的思考により問題を評価・批評できる存在

⇒ 意思決定に「科学」がどう関わるかを示唆

「科学者社会」の可能性

- 科学者・科学的知見の複数性・多様性という当たり前の前提



「科学者社会」として見る ⇔ 「市民社会」とのアナロジー

科学者社会における
討議の必要性



行政の対応への批判
「利益相反」問題の相対化
問題の総体的把握（例／リスク分析、生命）

制度化へのヒント

- 「科学」の多元的構造を社会に可視化するための制度化が模索される必要

(例) 公開審問 Public Inquiry

コンカレント・カンファレンス

(オリジナルの) コンセンサス会議

授権の問題は残る...

決定者の問題も残る...

社会の中の科学者

- 「認識」と「ディスコース」に対する感覚
- 政治性と党派性に対する感覚

過剰な政治性 / 過少な政治性

過剰な党派性 / 過少な党派性

...ありがとうございました。